ISSN 2432-4817

2024 年度

第 9 回国際 ICT 利用研究学会全国大会

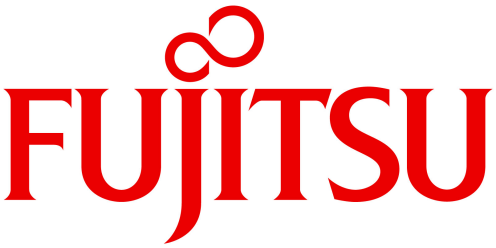
IIARS2024

国際 ICT 利用研究学会

全国大会講演要約集

2024 年 12 月 1 日(日)

主催 国際 ICT 利用研究学会



U-Assist 大学生のためのe-Learningコンテンツシリーズ

2023年7月
リリース

問題解決のための
統計学基礎 記述統計

著作：立正大学 教授 渡辺美智子

PC・タブレット
スマホ対応！



この教材では、統計学とくに記述統計についての基本的な知識を学ぶことができます。
記述統計について、基本的な考えや特徴を学習して、問題解決に活かす基礎を身につけましょう。

特徴

- 統計学とくに記述統計の基本的な知識を丁寧に解説しています。
- グラフや図解を豊富に用いた解説が、ほぼすべてのページにあります。
- サンプルデータをダウンロードして、関数を使った簡単な計算を実践することができます。
- 各章の学習画面はトピックごとに区切り、スクロールをして読み進めることができます。
- 既に知っている内容であれば、さらにスクロールをして目的のページへ進むこともできます。
- 学習後は修了テスト」を行うことで、理解を深める構成になっています。
- サイトライセンスまたはクラウド配信サービスでのご利用が可能です。

内容（目次） 学習時間の目安 5～8時間

第1章 統計分析の基礎 - 統計分析とは -【パートⅠ】
第1章 統計分析の基礎 - 質的データの分析（表とグラフ）-【パートⅡ】
第2章 基本統計量とその活用 - 分布の中心位置（代表値）-【パートⅠ】
第2章 基本統計量とその活用 - 分布の広がりの大きさを測る指標 -【パートⅡ】
第3章 ２つのデータ項目（変数）間の関連性の分析
第4章 時系列データの分析
第5章 統計表の作成
修了テスト

無料

コンテンツのモニター利用ができます！

弊社リモートアクセス用サーバに接続していただき、実際にコンテンツをご覧いただけます。
インターネット環境があればご利用いただけます。お気軽にお申込み下さい。

お申込みはこちら https://www.datapacific.co.jp/contact/document.html

日本データパシフィック株式会社 https://www.datapacific.co.jp/ 東京都国立市東1-4-15 国立ＫＴビル TEL：042-573-6721

第9回　国際ICT利用研究学会全国大会　目次

※(S)は学生発表

	題　　目	著　　者
A1	10:30－12:00	座長：中村洋介（福島大学）
A1-1	(S)地球環境を学ぶ学生に対する災害意識調査	関谷将人,青木和昭(立正大学)
A1-2	(S)消費者の購買行動におけるロコミ利用の推奨	細井咲希(日本大学)
A1-3	(S)美容整形に対する若年層の意識とSNSの影響	室井美月(埼玉女子短期大学)
A1-4	(S)SNSの普及と占いが人に与える効果と提言	増渕来美(埼玉女子短期大学)
A1-5	日本全国における特別支援学校の立地調査と防災の観点における評価	中村洋介,伊藤美優(福島大学,福島県立大笹生支援学校)
A1-6	(S)YouTubeにおける「バズる」という現象について	内田真人(大東文化大学)
A2	13:00－14:30	座長：田中雅章（愛知医療学院大学）
A2-1	(S)大学生は大学に何を要望しているのか	佐藤瀬里奈,川村麻耶,西川友子(米沢女子短期大学)
A2-2	学生の声アンケートから見る大学施設･教育環境の課題	西川友子,川村麻耶(山形県立米沢女子短期大学,山形県公立大学法人)
A2-3	(S)電子機器使用による学校成績への影響	寺本昂生(日本大学)
A2-4	(S)生活習慣と電子機器利用における健康状態について	野田雅喜(日本大学)
A2-5	(S)QOL･幸福度向上の視点～人生100年時代の資産形成	竹谷実麻(大東文化大学)
A2-6	(S)高齢者に向けたスマートフォン利用支援団体設置の必要性	作田駿大(日本大学)
A3	14:45－16:15	座長：西川友子（山形県立米沢女子短期大学）
A3-1	弱条件組合せ線形計画法とメタ組合せへの応用	稲田禎一,松尾徳朗,高橋里司(産業技術大学院大学,電気通信大学)
A3-2	(S)AIライブラリを用いたPythonプログラムによる株式予測	王有仟(大東文化大学)
A3-3	「クイズ駆動型授業」を展開する看護師･保健師向け「人体の構造と機能」講義の試み	神崎秀嗣(秀明大学)
A3-4	おひとりさま客の視点から居心地の良いカフェ空間デザインの好みを探る	西川友子,川村麻耶(山形県立米沢女子短期大学,事業構想大学院大学)
A3-5	(S)おひとりさま客の視点から居心地の良いカフェで提供するサービスの好みを探る	川村麻耶,西川友子(事業構想大学院大学,山形県立米沢女子短期大学)
A3-6	(S)低所得者によるショッピングサイト利用の諸問題	和泉沙楓(埼玉女子短期大学)

	題　　目	著　　者
B1	10:30－12:00	座長：木川裕（日本大学）
B1-1	(S)オンラインショッピングにおける消費者の購入意思決定	杉﨑陽菜(大東文化大学)
B1-2	(S)まちづくりのための地域活動への参加と居住年数の関連性―東北地方の若者のきっかけと意欲を探る―	加藤さらさ,西川友子(山形県立米沢女子短期大学)
B1-3	(S)スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動への参加と居住年数の関連性―東北地方の若者のきっかけと意欲を探る―	加藤さらさ,西川友子(山形県立米沢女子短期大学)
B1-4	(S)自然や環境を守るための地域活動への参加と居住年数の関連性―東北地方の若者のきっかけと意欲を探る―	加藤さらさ,西川友子(山形県立米沢女子短期大学)
B1-5	(S)スポーツの[観戦・エンタメ分野]におけるICT技術との関係性について	山田雄馬,葛西諒星(大東文化大学)
B1-6	(S)競技におけるAI判定導入による効果	太刀岡璃音(埼玉女子短期大学)
B2	13:00－14:30	座長：白木洋平（立正大学）
B2-1	(S)2024年能登半島地震における津波シミュレーション構築に関する研究	伊藤響希,後藤真太郎,佐藤響平,田中優也(立正大学)
B2-2	(S)衛星データを利用したサンゴの高水温ストレスによる白化現象の評価	吉中洸貴,田中優也,佐藤響平,後藤真太郎(立正大学)
B2-3	説明可能なAIを用いたオオムラサキの生息域評価モデル ―埼玉県滑川町を対象として―	佐藤空史,田中優也,後藤真太郎(立正大学)
B2-4	(S)令和元年台風19号災害における樋門の影響に関する氾濫シミュレーション	石井大稀,青木和昭(立正大学)
B2-5	(S)狩野川流域における放水路の効果検証と氾濫要因の分析 ―令和元年東日本台風を対象に―	川口緋莉,後藤真太郎,田中優也,佐藤響平(立正大学)
B2-6	逃げ地図を用いた避難弱者の避難所利用に関する研究 ― 栃木県佐野市を対象として ―	岩井田亜弥,田中優也,佐藤響平,後藤真太郎(立正大学)
B3	14:45－16:00	座長：永田清（大東文化大学）
B3-1	(S)神奈川県大磯町における津波発生時の避難シミュレーション	小林尊,青木和昭(立正大学)
B3-2	(S)噴火災害（溶岩流）発生時における災害時要援護者の避難課題に関する一考察 ―静岡県御殿場市を対象として―	川島稜矢,白木洋平(立正大学)
B3-3	(S)防災意識向上におけるICT機器とマイクロメディアの役割	大川原朋希(日本大学)
B3-4	(S)氾濫シミュレーションと逃げ地図を併用した避難リスク評価-令和元年東日本台風時の越辺川流域への適用-	島田駿,田中優也,佐藤響平,後藤真太郎(立正大学)
B3-5	(S)基礎自治体におけるSNSの利活用について	飛田康成(日本大学)
B3-6	(S)家庭菜園におけるマメ科を含むコンパニオンプランツの窒素固定能に関する微生物多様性効果に関する研究	佐藤太陽,佐藤響平,田中優也,野口義剛,後藤真太郎(立正大学)

	題　　目	著　　者
C1	10:30－12:00	座長：櫻井広幸（立正大学）
C1-1	(S)イヤホンの外音取り込み機能がコミュニケーション能力へ及ぼす影響	工藤楓(大東文化大学)
C1-2	(S)体育・保健体育の講義における有効的なＩＣＴ利活用とは	工藤遼汰(日本大学)
C1-3	(S)ICTを用いた健康寿命の延伸	直井勇樹(大東文化大学)
C1-4	医療系基礎統計学習におけるBYOD方式の問題点と展望	田中雅章(愛知医療学院大学)
C1-5	異世界ライフの特徴と教育系コンテンツへの利用を目指して	櫻井広幸,山下倫範(立正大学)
C1-6	(S)熊谷市における郊外部と都市部の地表面温度	荒井祥輔,青木和昭(立正大学)
C2	13:00－14:30	座長：小堺光芳（埼玉女子短期大学）
C2-1	(S)Web閲覧中の視線情報を活用した嗜好抽出とその関連ニュース推薦の研究	岩佐周,星野祐子,石井英里子,山田光穂(東海大学,東海大学,鹿児島県立短期大学,東海大学)
C2-2	(S)「熊谷市中西地区」をモデルケースとした地区防災計画の作成と運用・モデル化	田中陸都,後藤真太郎(立正大学)
C2-3	(S)ネイルケアによる心理的効果について	楠野友香(埼玉女子短期大学)
C2-4	(S)保育施設におけるICT活用の現状	富川拳(日本大学)
C2-5	(S)ICTの活用による高齢者の衣服購入への充実化	古川愛(日本大学)
C2-6	「AirDropテロ」「AirDrop痴漢」によって引き起こされる被害とその対策	小林郁斗(大東文化大学)
C3	14:45－16:00	座長：青木和昭（立正大学）
C3-1	(S)Zスコアを用いた上場撤退・倒産モデルの発見について	福島健輔(大東文化大学)
C3-2	(S)サイバー犯罪と個人情報	庄野莉央(大東文化大学)
C3-3	(S)バーコード決済についての動向と考察	岩本岳(日本大学法学部)
C3-4	(S)SNS アカウントの乗っ取りとその対策について	舘下圭祐(大東文化大学)
C3-5	IAR 2024 開催報告	次郎丸沢(株式会社カンファレンスサービス)

プログラム

2024 年 12 月 1 日（日）

09:30−	受付開始
10:30−12:00	分科会 I 部（A、B、C 会場）
12:00−13:00	昼休み、役員懇談会（542）
13:00−14:30	分科会 2 部（A、B、C 会場）
14:45−16:15	分科会 3 部（A、B、C 会場）

分科会会場

A 会場（531）、B 会場（532）、C 会場（541）

共 催

（株）ソリッドレイ研究所

日本データパシフィック（株）

（株）内田洋行

富士通 Japan（株）

（株）カンファレンスサービス

後 援

一般社団法人 国際ICT利用研究機構

一般社団法人 国際応用情報学研究機構

（株） OME

A1　　会場：A 会場　　10:30－12:00
座長：中村洋介（福島大学）

A1-1　関谷将人,青木和昭(立正大学)

本研究は、地球環境を学ぶ学生を対象に、災害リスク認識、対策行動、情報収集方法などの意識と行動の実態を調査し、防災教育や災害経験の有無が与える影響を分析した。調査結果から、学生間で災害意識や準備行動に差があることが明らかとなり、地域ごとの情報提供や啓発活動の必要性が示唆された。本研究は、防災意識の向上に向けた具体的な提言を行い、災害に強い社会の形成に寄与することを目的としている。

A1-2　細井咲希(日本大学)

近年インターネットの普及率が高まり、スマートフォンやパソコン、タブレットなど様々な媒体で情報の入手が簡単にできる時代となった。情報社会となった現代において様々な事柄と ICT の結びつきは強くなっている。そこから購買行動においての口コミ利用は今後もより一層重要性が増していくと考察し、口コミのさらなる推奨に伴う、現代の情報社会においての懸念点を解消することが求められるため、この研究ではその改善案を示すことにする。

A1-3　室井美月(埼玉女子短期大学)

SNS で美容整形をしたことを公表する人や美容整形に関する広告を見かける機会が増えた。Instagram や TikTok などの SNS が普及し、美容整形に関する発信が増えたことで、美容整形に興味を持つ人も増えたと考える。学内にてアンケート調査を行い、若者の美容整形に対する意識や、美容整形をする人が増加している理由を明らかにする。

A1-4　増渕来美(埼玉女子短期大学)

ソーシャルメディア時代において、「他者とのより良い関係構築」は多くの人が関心を寄せるテーマであると感じた。その意味でも、これまで以上に占いが人気を集めるツールになるのか関心を抱いたことから研究を始めた。 そこで、日本の将来を担う若者の占いへの関心度や利用方法などを知るため、学内にてアンケート調査を実施し、短大生の占いについての捉え方を調査した。また、「占い市場」の現状についても調査し、問題視されている点を事例として取り上げる。

A1-5　中村洋介,伊藤美優(福島大学,福島県立大笹生支援学校)

全国にある 1190 の特別支援学校を対象として、災害の危険性について調査を行い、その立地について、① 国土交通省の重ねるハザードマップを用いて、洪水、高潮、津波の想定浸水高と土砂災害の危険度の分類分け、指定緊急避難場所の設置の有無と災害種についての調査、② 首都直下地震と南海トラフ地震において想定される被災状況や危険度についての調査を実施した。

A1-6　内田真人(大東文化大学)

YouTube において、「インターネット上で話題となり、多数の人から注目を集めている状態」を指す「バズる」という現象の要因について研究する。研究者自身が YouTube に動画を投稿して、チャンネル登録者数 1 万人と視聴回数 10 万回の二つの目標を設定して研究した。

A2　　会場：A 会場　　13:00－14:30
座長：田中雅章（愛知医療学院大学）

A2-1　佐藤瀬里奈,川村麻耶,西川友子(米沢女子短期大学)

本研究の目的は所属大学での学生の声アンケートの学生のコメントを分析し，学生のコメントから浮かび上がる学生側の要望を検討することであった。学生のコメントは SCAT（Steps for Coding and Theorization）によって分析された。本研究では「教育課程と履修」,「学生と教員の関係」,「施設・設備の状況」,「事務手続き上の問題」そして「社会情勢」といった 5 つのテーマが生成された。これらの知見は学生のホンネを解釈することの一助になる可能性がある。

A2-2　西川友子,川村麻耶(山形県立米沢女子短期大学,山形県公立大学法人)

本研究の目的は所属大学の学生の声アンケートの大学側の回答を分析し，大学側の回答から浮かび上がる大学側の置かれた状況を検討することであった。大学側の回答は SCAT（Steps for Coding and Theorization）によって分析された。本研究では〈施設・設備〉,〈授業〉,〈学生と教員の関係〉そして〈事務手続き〉といった 4 つのテーマが生成された。これらの知見は所属大学の大学経営や運営の一助になる可能性がある。

A2-3　寺本昂生(日本大学)

大学生を対象に電子機器の使用時間、使用頻度、用途、GPA 数値の把握、デジタルデトックスに対する認識の有無などの調査を行い、その結果から学校成績に対してどのような影響を与えるか、電子機器使用時間と GPA 数値の相関について検討する。またそれに伴い効率的で最適な勉強時間の調査を行い、電子機器の使用時間と学校の成績との関係について理解を深める内容になっている。

A2-4　野田雅喜(日本大学)

電子機器を利用する上で健康被害は大きな問題である。長時間の使用による眼精疲労や肩こり、腰痛など身体に数多くの影響をもたらす。本稿では電子機器の利用方法と睡眠や食事などの生活習慣の観点から健康状態について調査し、健康的に長く、電子機器を効果的に利用する方法を検討する。調査は主に若年層、大学生に向けてアンケート調査にて行った。

A2-5　竹谷実麻(大東文化大学)

資産形成や幸福度、QOL の視点を含めて考察し、豊かに幸せに生きるための提案を示す

A2-6　作田駿大(日本大学)

高齢者におけるスマートフォンへの印象や悩み、スマートフォン教室等の支援団体に求める要素や必要性についてアンケートを取った。このアンケートに対し論文をまとめた。

A3　　会場：A 会場　　14:45－16:15
座長：西川友子（山形県立米沢女子短期大学）

A3-1　稲田禎一,松尾徳朗,高橋里司(産業技術大学院大学,電気通信大学)

我々は弱条件組合せ線形計画法（目標値を満たす素材の組合せや供給停止リスクを複素線形空間で算出す

る手法）を考案し、材料設計と開発への応用を図ってきた。また材料単体に止まらず、複数の材料を積層するなどしたメタ組合せについても考察し、目標値を満足するメタ組合せの手法と供給停止に対するリスクを一般的な式で表した。しかしメタ組合せに関しては材料に関する情報が明確な場合と不明確な場合があり、さらなる一般化が必要である。今回はその予備的検討状況について述べる。

A3-2　王有仟(大東文化大学)

株式市場の予測は、投資家や金融専門家たちが関心を持っているが、市場の複雑さと不確実性により、正確な予測は非常に困難である。経験を用いた株価予測も可能だが、判断する人の主観によるので、一般化しにくい。近年、AI 技術、特に機械学習や深層学習技術の急速な発展により、株式市場予測への応用が増加している。本研究は AI の要素を Python プログラミングで実装して複数回の株価予測を行い、その結果を考察する。

A3-3　神崎秀嗣(秀明大学)

人体の構造と機能（形態機能学）は、看護師・保健師だけでなく、医療系専門職には必須科目である。しかし、苦手とする学生が多く、演者はさまざまな授業改善を行ってきた今回、「宿題駆動授業」つまり、講義のはじめに宿題を出し、その時間内に宿題が解けるように学生には求め、講義を行った。その結果、到達目標を越える成績を残し、また授業改善アンケートも好評で、「非常に分かり安い」等のコメントも頂いた。さらに看護師・保健師養成に貢献したい。

A3-4　西川友子,川村麻耶(山形県立米沢女子短期大学,事業構想大学院大学)

本研究の目的は，自分の時間を過ごす目的でカフェに来店したおひとりさま客が，居心地の良さを感じるカフェ空間の空間デザインを顧客側の視点から検討することである。一人でカフェに行ったことがない群とある群とで，４つの属性（お客さま同士の席の間隔，周りの客層，店内にあるテーブルの形状，店内にあるカウンターの形式）に関するコンジョイント分析を実施した。その結果，カフェのひとり客は「お客さま同士の席の間隔」を重要視していることが明らかとなった。これらの知見はおひとりさま客をターゲットにする場合のカフェの設計やマーケティングに指針を提供するものである。

A3-5　川村麻耶,西川友子(事業構想大学院大学,山形県立米沢女子短期大学)

本研究の目的は，自分の時間を過ごす目的でカフェに来店したおひとりさま客が，居心地の良いカフェのサービスを顧客側の視点から検討することである。一人でカフェに行ったことがない群とある群とで，４つの属性（支払方法，店内 BGM，Wi-Fi 環境，電源）に関するコンジョイント分析を実施した。その結果，カフェのひとり客は「Wi-Fi 環境」を最重要視していることがわかった。これらの知見はおひとりさま客をターゲットにする場合のカフェの設計やマーケティングに指針を提供するものである。

A3-6　和泉沙楓(埼玉女子短期大学)

多くの人がネットショッピングを利用する現代社会において、さまざまな問題が生じている。その諸問題の一つにネットショッピングサイト「SHEIN」(以下、SHEIN と呼ぶ)の問題がある。この SHEIN は、衣類から日用品までを安価な価格設定で販売している。そのため低所得者が主に利用するネットショッピングサイトとなっている。この SHEIN では、基準値を超える発がん性の物質が含まれている商品が販売されていた。本研究では SHEIN の諸問題について調べることで、ネットショッピングでは何が起きているのか状況を把握する。

B1　　会場：B 会場　　10:30－12:00
座長：木川裕（日本大学）

B1-1　　杉﨑陽菜(大東文化大学)
近年、インターネットを通じての商品注文・購入などオンラインショッピングが増加してきている。インターネットを利用するだけで、実際に自らが出向かうことなく商品の購入、サービスの予約などの手続きができるようになった。しかし、店舗が存在している場合、実際に自分で確かめて判断することができるが、ネット上で購入するとなると、判断材料は、必然的に他人の口コミか商品 PR のみになってしまう。本稿では、オンラインショッピングで消費者がものを買う決め手として、口コミで判断している人は何割いるのだろうか。そして何を根拠としてその決め方で購入の判断を行っているのかを調査し、商品を購入するときにあたって注意すべきことは何なのかを明らかにしていく。

B1-2　　加藤さらさ,西川友子(山形県立米沢女子短期大学)
本研究の目的はまちづくりのための活動に着目し、居住年数と当該活動の参加の有無との関連性、当該活動への参加のきっかけ、および居住年数と当該活動への今後の参加意思との関連性を検証することであった。この目的を達成するために、横断研究を実施し、東北地方出身者を山形県出身と山形県以外の東北 5 県に分けて比較検討した。山形県出身者においては、当該活動への参加の有無と居住年数との間に有意な関連があることが見られた。さらに、当該活動への今後の参加意思の有無と居住年数との間に有意な関連が見られた。これらの知見は、今後のまちづくりのための活動への参加を促すための方策を検討するための一助になる可能性がある。

B1-3　　加藤さらさ,西川友子(山形県立米沢女子短期大学)
本研究の目的はスポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動に着目し、居住年数と当該活動の参加の有無との関連性、当該活動への参加のきっかけ、および居住年数と当該活動への今後の参加意思との関連性を検証することであった。この目的を達成するために、横断研究を実施し、東北地方出身者を山形県出身と山形県以外の東北 5 県に分けて比較検討した。山形県出身者と東北 5 県出身者ともに、当該活動への参加の有無と居住年数との間に有意な関連があることが見られなかった。また、当該活動への今後の参加意思の有無と居住年数との間に有意な関連が見られなかった。これらの知見は、今後のスポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動への参加を促すための方策を検討するための一助になる可能性がある。

B1-4　　加藤さらさ,西川友子(山形県立米沢女子短期大学)
本研究の目的は自然や環境を守るための活動に着目し、居住年数と当該活動の参加の有無との関連性、当該活動への参加のきっかけ、および居住年数と当該活動への今後の参加意思との関連性を検証することであった。この目的を達成するために、横断研究を実施し、東北地方出身者を山形県出身と山形県以外の東北 5 県に分けて比較検討した。山形県出身者と東北 5 県出身者ともに、当該活動への参加の有無と居住年数との間に有意な関連があることが見られなかった。山形県出身者においては当該活動への今後の参加意思の有無と居住年数との間に有意な関連が見られた。これらの知見は、今後の自然や環境を守るための活動への参加を促すための方策を検討するための一助になる可能性がある。

B1-5　　山田雄馬,葛西諒星(大東文化大学)
近年、あらゆるスポーツにおいて、ドローンを用いた臨場感のある試合中継やスマホなどを用いて応援を直

接形にして届けられる取り組みなど、ICT 技術の活用による観戦方法の多様化が進んでいる。こうした観戦方法の変化は、今後スポーツ界に大きな影響を与えていくと考えられる。本研究では、スポーツを観戦する観客側の目線から[観戦],[エンタメ]についての研究を行っていく。

B1-6　太刀岡璃音(埼玉女子短期大学)

2024 年パリオリンピックが開催され、人による判定に対して、多くの誤審騒動が起こった。AI 判定導入は疑惑の判定を大きく減少させることが期待される。そこでオリンピック誤審騒動と AI 判定について学内アンケート調査を実施し、過去の誤審騒動と AI 判定の利用方法から AI 判定によるメリット・デメリットについて考察した。本研究では AI 判定を活用することで競技にどのような変化があるのかを明らかにすることを試みる。

B2　会場：B 会場　13:00－14:30
座長：白木洋平（立正大学）

B2-1　伊藤響希,後藤真太郎,佐藤響平,田中優也(立正大学)

本研究では,2024 年に発生した能登半島地震における鵜飼漁港周辺の津波災害を対象に,汎用的に利用される河川シミュレーション IRIC に遡上については氾濫シミュレーションモデルを適用し津波シミュレーションを実施し,実測値との比較検証により実用性を評価した.その結果,観測結果との整合性も良く,汎用的なソフトでも実用に供するモデルを構築することが可能であることを明らかにした.

B2-2　吉中洸貴,田中優也,佐藤響平,後藤真太郎(立正大学)

本研究では、サンゴ礁の白化現象を衛星データを用いて評価することを目的としている。従来使用されている衛星画像は NOAA から提供される 5km メッシュの衛星画像でありでは局所的な評価が難しい。そのため 100m メッシュである LANDSAT-8 の高解像度データを使用し、沖縄沿岸域の白化リスクを詳細に評価した。その結果、30℃を超えた地点は一部に限定され、白化リスクが比較的低いことが確認できた。

B2-3　佐藤空史,田中優也,後藤真太郎(立正大学)

本研究では，埼玉県滑川町を対象に，生態系評価手法の一つである HEP をベースにオオムラサキの生息域評価モデルを構築した。構築モデルに説明可能な AI の SHAP を適用することで，統計的に解釈が可能なモデルへ発展させた。オオムラサキの好適な生息環境として，樹林率，胸高直径，リターの厚さの寄与度が高いことを明らかにした。

B2-4　石井大稀,青木和昭(立正大学)

令和元年 10 月 12 日から 13 日にかけて、台風 19 号の上陸に伴う降水が原因で、長野県千曲川が氾濫し、八木沢川の流入を防ぐために八木沢川樋門を閉めた。しかし、樋門を閉めなかった場合、被害が拡大していたか、あるいは抑えられたかどうかについては、検討の余地があると考えられる。そこで、本研究では大きな被害が発生した令和元年台風 19 号を対象として、河川氾濫に対する八木沢川樋門が果たす役割を解明することを目的とする。iRIC を用いた氾濫シミュレーションを用いて、樋門の開閉のそれぞれをシミュレーションし、被害の差を検証する。

B2-5　川口緋莉,後藤真太郎,田中優也,佐藤響平(立正大学)

令和元年東日本台風による狩野川流域の氾濫を対象に、狩野川放水路の洪水調節効果と支流域での内水氾濫の要因を iRIC を用いた氾濫シミュレーションにより検証した。

B2-6　岩井田亜弥,田中優也,佐藤響平,後藤真太郎(立正大学)

本研究では、災害弱者である高齢者に焦点を当て、避難時間から現行の避難所の立地特性を分析し、新たな避難所設置の有用性を明らかにした。水害時の避難時間を QGIS で可視化し、既存の避難所と新設した避難所の有効性を比較した。結果、避難所の追加により短時間で避難できる道路が増加し、逃げ遅れのリスクが減少することが示された。

B3　会場：B 会場　14:45－16:15
座長：永田清（大東文化大学）

B3-1　小林尊,青木和昭(立正大学)

2024 年 1 月 1 日に能登半島地震、同年 8 月 8 日に日向灘地震が発生し、地震に対する意識が高まりつつある。南海トラフ地震、小田原地震、首都直下型地震による被害が想定される神奈川県大磯町において、地震発生時、津波から避難所までの避難にかかる時間を求めるシミュレーションを行った。

B3-2　川島稜矢,白木洋平(立正大学)

本研究では,「溶岩流到達時間」,「救助活動可能者」,「避難場所までの距離」の情報を考慮して，溶岩流が発生した場合における災害時要援護者が住んでいる地域の危険度（地域危険度）について避難の実現性も含めた解析を行うこととした。その結果, 以下のことが明らかとなった。①高齢者は御殿場市全域に分布しており，市街地から離れるほど救助活動可能者も少なくなっていき，あわせて避難場所も少なくなっていくという現状が把握できた。②富士山に近ければ近いほど（郊外），地域危険度が高くなることがわかった。以上から，地域危険度を下げるためには郊外において避難場所を増設することが良いと考えられる。

B3-3　大川原朋希(日本大学)

本論文は、ICT を活用した防災意識向上の可能性を探るものである。大学生を対象に被災経験の有無、防災意識、特務機関 NERV 防災アプリの利用状況についてアンケート調査を実施。結果、被災経験が防災行動に影響を与える一方、特務機関 NERV 防災アプリの認知度や利用率が低いことが判明。災害時には正確で信頼性の高い情報収集が求められる中、同アプリの普及が防災意識向上に有効であると結論づけた。

B3-4　島田駿,田中優也,佐藤響平,後藤真太郎(立正大学)

本研究では，1 つ目に氾濫到達時間と浸水深算出を目的に流量計算と氾濫シミュレーションを行った。その結果，流量計算では，NSE の閾値を満たしても，流量の誤差が大きいことを明らかにした。氾濫シミュレーションでは，作成された地形データの時期によって，地形の起伏が変わるため，誤差が生じることが明らかとなった。2 つ目に，家屋毎のリスクマップ作成を行った。浸水範囲と逃げ地図から家屋毎リスクマップを作成し, 家屋毎リスクマップでは, 避難に要する時間と避難時間に応じた避難基準(リスクランク)を明らかにした。

B3-5　飛田康成(日本大学)

平成の 30 年間において著しく普及したインターネットというツールは、技術の発展により多くの日本人の情報を入手する手段として大きな役割を担っている。その中でも特に SNS の利用率は高い傾向にある。そこ

で住民に対しサービスを直接提供する基礎自治体ではこの SNS をうまく活用する必要がある。これらのことから本稿では基礎自治体が SNS を運用する際に注意するべき点や実際に住民に利用してもらうにはどのような工夫が必要かアンケートを活用して検討した。

B3-6　佐藤太陽,佐藤響平,田中優也,野口義剛,後藤真太郎(立正大学)

本研究では、マメ科を含むコンパニオンプランツを栽培した際の土壌微生物がもつ窒素固定能を評価するために、BioPlate を用いて土壌の窒素固定量および土壌微生物の多様性を評価した。パックテストの計測結果より、混植によって窒素固定能が増幅することを明らかにした。また、BioPlate の計測結果より、混植によって土壌微生物の多様性と土壌微生物の活性値はどちらも増加したことを明らかにした。

C1　会場：C 会場　10:30－12:00
座長：櫻井広幸（立正大学）

C1-1　工藤楓(大東文化大学)

近年、ウェアラブル端末の普及に伴い、イヤホンは私たちの生活には老若男女問わず必要不可欠な存在になった。特に、ノイズキャンセリング機能や外音取り込み機能を搭載した多機能型イヤホンの登場は私たちの生活へ多大な影響を及ぼした。しかしながら、レジでのコミュニケーショントラブルやイヤホンによる事故など新たな問題も浮上している。本稿では外音取り込みイヤホンに対する使用者のコミュニケーション能力の認識と実際の影響に関して実験を用いて調査し、明らかにすることを目的とする。

C1-2　工藤遼汰(日本大学)

ICT の普及とスマートフォンの急速な拡大により、個人のインターネット利用が身近で多様化した。特に教育分野においては、情報通信技術の利用年齢が低下し、手軽に活用できる一方で、メリットとデメリットを十分に理解した上での慎重な活用が求められる。本稿では、大学体育における ICT 教育の変化に注目し、学生のニーズに応えるための利点と課題を分析し、今後の効果的な活用方法と展望について論じていく。

C1-3　直井勇樹(大東文化大学)

近年、健康寿命の延伸は世界的に注目されている重要なテーマである。日本をはじめとする多くの先進国では高齢化が進んでおり、平均寿命が延びる一方で、健康寿命とのギャップが問題視されている。このギャップが大きいほど、介護や医療の負担が増加し、個人や社会にとって大きな経済的・心理的負担となる。そのため、平均寿命の延伸だけでなく、健康寿命を延ばすことが重要視されている。ICT 技術を用いることによって、健康寿命の延伸をサポートするといったことが今後の社会全体の持続可能性への貢献につながると考えられる。このような技術が普及し活用されるためにはどのような課題を解決していく必要があるのだろうか。

C1-4　田中雅章(愛知医療学院大学)

近年，情報技術の飛躍的な発展に伴い，教育現場においてもさまざまなデジタルデバイスが導入され，学習環境が大きく変化している。その中でも BYOD（Bring Your Own Device）方式は，学生自身が所有するノートパソコンを大学の教育活動に活用するものであり，学習の柔軟性やパーソナライズといった利点から注目を集めている。医療系分野においても，情報科学や統計学は根拠に基づいた医療を実践するために不可欠な学問であり，その重要性はますます高まっている。従来の講義形式に加え，BYOD 方式を導入することで，学生はいつでもどこでも深い学びを実践できるようになり，これからの医療従事者としての高い分析能力が期

待できる。しかしながら，BYOD 方式の導入は，必ずしも順風満帆とはいえない。本研究では，医療系基礎統計学の学習においてBYOD 方式を導入する際に生じる利点や問題点を著者の情報教育経験に基づき検討した。また，その解決策や今後の展望について述べる。

C1-5　櫻井広幸,山下倫範(立正大学)

異世界という表現は、映画、ゲーム、小説、漫画などで近年頻繁に見るようなった。これらは、人々、特に若い世代の何らかの願望や夢、あるいは現実世界にはないある種の価値を反映している可能性がある。人々が異世界に魅力を感じている点ならびにそれを参考にしてＶＲ空間をつくることでの、リアル世界や教育等での利用の可能性を考察する。

C1-6　荒井祥輔,青木和昭(立正大学)

世界的に温暖化が進み日本でも一年を通して春から夏、秋にかけて記録的な暑さになる日が多くある。特に都心部ではヒートアイランド現象により昼夜問わず熱のこもる環境が作り出される。その中で生活をする犬や猫、ネズミなどの中小動物は、人間よりも低い位置で地面から照り返す熱の影響をより直接的に受けている。これらの生物たちは気温変化によりどのような影響を受けているのか、毎年記録的な暑さを観測している埼玉県熊谷市の都市部と郊外部を舞台に地表面温度を計測し、その影響について検討する。

C2　会場：C 会場　13:00－14:30

座長：小堺光芳（埼玉女子短期大学）

C2-1　岩佐周,星野祐子,石井英里子,山田光穂(東海大学,東海大学,鹿児島県立短期大学,東海大学)

本研究は視線情報を活用してユーザの嗜好を抽出し，それにもとづいた観光関連ニュースを推薦するシステムの開発及び検証を行った．具体的には，視線計測装置を用いて Web 閲覧中の注視文章を取得し，形態素解析や単語間類似度などを用いてユーザの好みを分析して観光関連のニュースキーワードを推薦する．周辺観光及び歴史観光に興味があると想定した検証の結果から，この手法がユーザの検索意図を反映した推薦が可能であることが示唆された．

C2-2　田中陸都,後藤真太郎(立正大学)

2013 年に創設された「地区防災計画制度」は災害対策基本のなかでの「公助の限界」を強く認識させた。現在では全国で策定が進んでいるが埼玉県熊谷市では 1 地区のみに事例がある状況である。その中で、現在策定を進める中西地区にて自身が参画し、地図などの作成運用、今後の他　地区での策定時のモデル化についてを説く

C2-3　楠野友香(埼玉女子短期大学)

ネイルサロンの店舗数増加とメンズネイルや福祉ネイルが広まったことで、老若男女問わずネイルケアを楽しむ人が増えている。こうした変化は、ネイルケア・アートには心理的効果が働くためであると考えられる。ネイルのケアは手元を清潔に見せ、より美しく整えることで、他人に品の良さを感じさせる効果がある。さらに、自分のモチベーションを高める効果も同時に働くと仮説を立てた。本研究はネイルケアやネイルアートによる心理的効果を明らかにすることを試みる。

C2-4　富川拳(日本大学)

近年保育施設利用のニーズが高まる一方で保育施設の人手不足は深刻化している。そのような中で保育施設においてICTの活用が行われるようになっている。アンケート調査の結果に基づき保育施設においてICTがどのように活用されているか現状を把握しさらなるICTの活用促進のために今後必要なサポートや改善点などについての検討を試みる。

C2-5　古川愛(日本大学)

衣服は、「衣食住」の一つであり、新生児から高齢者まで全世代において欠かせないものである。そこで、高齢化が進むにあたり、全世代が不自由なく生活するために、衣服の購入方法を充実化させるべきであると考えた。本研究では65歳以上の高齢者に向け、衣服の購入時に何を求めているか、不便に感じていることは何か、購入頻度などの調査を行い、結果から高齢者に向けてICTを活用した衣服の購入方法の充実化について検討する。

C2-6　小林郁斗(大東文化大学)

AirDropテロ、AirDrop痴漢とは、Apple製デバイスの一機能である「AirDrop」を悪用し、他人のデバイスに不適切な画像やファイル、メッセージなどを無断で送信する行為のことで、プライバシーの侵害、精神的苦痛を引き起こし、公衆の安全を脅かすと近年のデジタル技術の発展に伴い問題となっている。本稿では、エアドロテロ、エアドロ痴漢の社会的影響について言及し、その具体的な対策を示す。

C3　会場：C会場　14:45－16:00
座長：青木和昭（立正大学）

C3-1　福島健輔(大東文化大学)

企業が倒産する要因の主な理由は、資金繰りの問題であるとされている。企業の財務諸表を分析することによって、資金や収益、費用などの法則から、倒産の兆しを見つけることが出来るのではないかと考えた。本研究を通じて、企業のIR情報を見ることへの距離感が近くなることも期待する。

C3-2　庄野莉央(大東文化大学)

高度情報ネットワーク社会以前には、金銭や物品、あるいは人命などを直接の対象としていた犯罪が、現代では情報を介するものとなっており、変化している。今回は個人情報に焦点を当てて、過去の犯罪データを基に自身の個人情報がどのように、どのような形で利用されてしまう可能性があるのかを明らかにする。そのうえでリテラシー修得や、対策する慎重さを身に付けるために研究を行う。

C3-3　岩本岳(日本大学法学部)

本稿は、近頃のキャッシュレス決済において、我が国においても急速に普及をみせているバーコード決済について焦点を当て、これからの時代を担っていく若者世代はキャッシュレス決済についてどのような意識を持っているのかを調査することで、若者世代の決済手段への意識と動向を明らかにし、今後のキャッシュレス決済の動向について考察を行うものである。

C3-4　舘下圭祐(大東文化大学)

パスワードが単純であったり不審なダイレクトメッセージを開いてしまったりしてSNSアカウントが不正にアクセスされ乗っ取られる被害が発生している。そして保存されている個人情報等が閲覧される危険性が

ある。その問題は特定の人ではなくインターネット社会にアクセスしていれば誰にでも起こる可能性がある。そのような問題意識から SNS アカウントの乗っ取り被害の有無をベースとし、アンケートで得られた結果を利用し様々な視点から分析を行い対策を論じる。

C3-5　　次郎丸沢(株式会社カンファレンスサービス)

IAR 2024 の開催報告を行う。

令和 6 年度 第 9 回 IIARS 全国大会 委員名簿

全国大会実行委員会

委員長	木川 裕	日本大学
副委員長	小堺 光芳	埼玉女子短期大学
副委員長	永田 清	大東文化大学

全国大会運営委員会

委員長	次郎丸 沢	(株) OME
副委員長	青木 和昭	立正大学

全国大会審査委員会

委員長	鈴木 治郎	信州大学
副委員長	平 治彦	日本データパシフィック (株)
副委員長	田中 敏幸	慶應義塾大学
委員	青木 一雄	沖縄産業保健総合支援センター
委員	井上 孝之	岩手県立大学
委員	鎌田 光宣	千葉商科大学
委員	木川 裕	日本大学
委員	小堺 光芳	埼玉女子短期大学
委員	佐久間貴士	千葉県立保健医療大学
委員	次郎丸 沢	(株) OME
委員	辰島 裕美	金沢星稜大学女子短期大学部
委員	高見 友幸	大阪電気通信大学
委員	田中 雅章	愛知医療学院大学
委員	永田 清	大東文化大学
委員	星野 祐子	東海大学
委員	福田真規夫	太成学院大学
委員	保本 正芳	近畿大学

2024 年 IIARS 第 9 回国際ICT利用研究学会全国大会 講演論文集 2024 年 12 月 1 日発行

発行所 一般社団法人 国際ICT利用研究機構 194-0004 東京都町田市南町田四丁目 2 番 1 号 401
Phone (042)795-6517, Fax. (042)795-6517 E-mail office@iiiar.org

UCHIDA

未 FUTURE CLASSROOM®
来型学習空間をご提案します。



建築躯体に手を加えることなく ICT空間を容易に構築。

現在の授業では、固定されたテーブルに着いて一方的に話を聞く学習ばかりではなく、最新のICT機器を用いた授業や、PBL※などのグループ単位で能動的に活動するような授業が増えてきています。
そういった授業の中では、通常の「レクチュア」から、グループ毎に分かれて活動する「グループワーク」、成果を共有・発表する「プレゼンテーション」や「ふりかえり」といった場面の転換が必要不可欠です。
それぞれのシーンにマッチした空間セッティングへの変換が、スムーズかつクイックに実現できるこれからの教室、それが「FUTURE CLASS ROOM® 〈フューチャークラスルーム® 〉」の考え方です。

※PBL（Project Based Learning）：授業形態の一つで「課題解決型授業」のこと。

「フューチャークラスルーム® 」は、学校関係者や企業・研究機関とご一緒に新しい授業スタイルの研究開発・実証実験を行える場所として、新川本社ビル（東京都中央区）、大阪支店（大阪府大阪市）、九州支店（福岡県福岡市）に設置しております。ぜひ、ご来場ください。







内田洋行 高等教育事業部

10480001

いい「学校・教育・授業」づくりを支援いたします。
http://school.uchida.co.jp/

東京 〒135-0016 東京都江東区東陽2-3-25 東日本営業部 ☎ 03(5634) 6441
大阪 〒540-8520 大阪市中央区和泉町2-2-2 西日本営業部 ☎ 06(6920) 2493

SOLIDRAY

私たちは創業37年目の　ＶＲ開発専門会社です。
あなたの会社のお悩みを　ＶＲの力で解決いたします。

ＶＲデモルーム@横浜

横浜にあるＶＲデモルームにて、各種デモをご用意しています。
驚きの体験を ぜひあなたの目で確認してください。



プロジェクション型ＶＲ

３Ｄプロジェクターと３Ｄメガネ、
ヘッドトラッキングカメラを利用し、
実寸大の3ＤＣＧを体感できます。



ＡＲ空間共有

ＨＭＤを通して現実世界にコンテンツ
を配置し、複数人で同時にこの空間を
共有できます。



インタラクティブ映像タップトーク

人の動きに合わせて映像が変わる、
インタラクティブ映像システムです。



３Ｄスキャンｖｒ

３Ｄスキャンした実際の空間を、
ＶＲにより実寸大表示します。

ＶＲデモルーム見学のお申込み、お問い合わせは
メールまたはお電話で。ご連絡お待ちしています。

価値あるVR創造企業
ソリッドレイ研究所

〒221-0835
神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-20-1　YTUビル5階
Mail　pro@solidray.co.jp
TEL　045-324-6841
URL　https://www.solidray.co.jp/

株式会社カンファレンスサービス

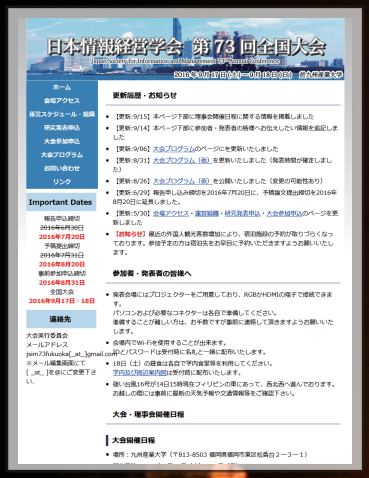
国内学会・国際会議をはじめとして、MICE（Meeting, Incentive Travel, Convention, Exhibition）のお手伝いをさせて頂いています。おかげさまで弊社も 14 期目となり、トップカンファレンスや予算規模の大きな学会を担当させて頂くことが増えてまいりました。

リピート率※
99.0%

99.0% というリピート率はご利用頂いた方々からの評価であると同時に、今後の更なる進化への期待でもあると感じています。マイページ機能やハイブリッド対応、それに受付の QR コード導入など，新機能も毎年追加投入しております。今後も主催者の皆様に喜ばれるサービスの提供を目指して日々精進してまいります。

Web サイト制作



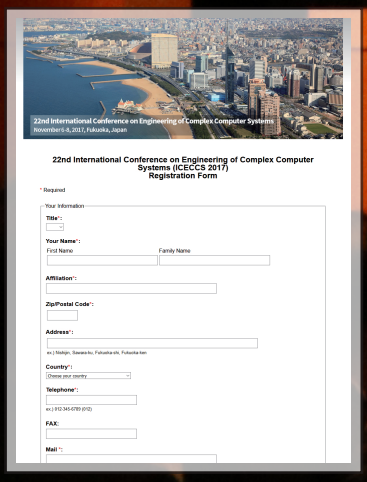


ポスター・チラシ制作





論文投稿および参加登録サイト制作





各種グッズ制作


カンファレンスバック



法被


手ぬぐい

※創業以来担当させていただいた 104 会議中 103 会議の発注者もしくは学会様が弊社をリピート利用されています

株式会社カンファレンスサービス
〒814-0012　福岡市早良区昭代２丁目５－２４
Tel: 092-986-4867
https://conferenceservice.jp/